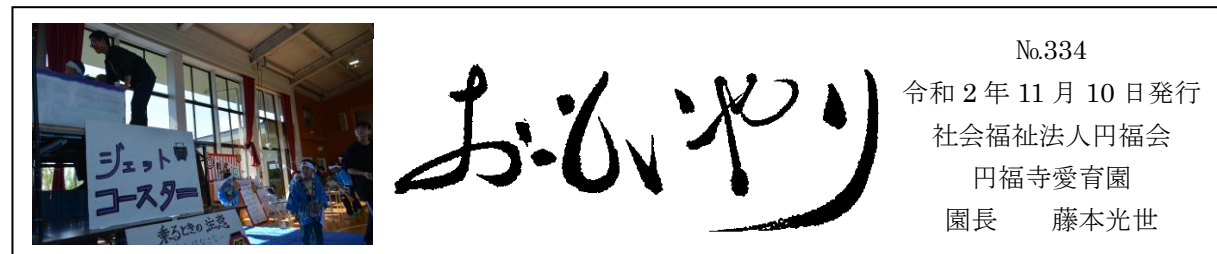


第23回愛育園祭、今年は園内行事で開催しました！！



愛育園祭



子どもたちは二週間ほど前から準備を重ねてきました。剣舞のパフォーマンスが入った木遣り、歌（二部合唱）の発表、書道パフォーマンスは素晴らしかったです。それぞれ、昨年以上のものと、職員も子どもたちも頑張ってくれました。お客さまは三名だけだったのですが、子どもたちは一生懸命心を込めて発表してくれました。書道パフォーマンスの最後に書く大きな字は、3月に卒園する子が書きます。今年はYさん。とても立派に書けました。作品は、卒園式に体育館に飾ります。楽しみにしてください。

職員や子どもたちの頑張りは、それぞれの寄稿からご覧になってください。

第三者評価

今年は三年に一度の第三者評価の受審年でした。評価者は前回と同じ評価センターとしました。

初めての受審の評価者は、会計事務所でした。会計事務所が児童養護施設を評価できるのだろうか。これが大きな疑問でした。

会社の評価は、製品に表れます。悪い製品を消費者は購入しませんので、わざわざ誰かに評価を頼む必要はありません。児童養護施設は、その養育が隠れていると見られており、しかも、時々施

園長 藤本光世

今年は、コロナ禍によりお友達や先生や区民の皆さまをお呼びすることができませんでした。円福会の役員の皆さまには、ご来賓として代表でおいでいただき、子どもたちの発表や露店を見ていただきたと思っていたのですが、案内状を差し上げたばかり勘違いしていました。直前（当日朝）にお声をかけた渡邊一正さま、柳澤和子さま、柳澤明さまお忙しい中をおいでくださり、ありがとうございました。

（令和2年11月10日発行 月刊「円福」482号付録）

設内虐待等の不祥事があるので、第三者評価はそれを防ぐためなのでしょうか。

会社の製品に当たる児童養護施設の養育結果は、子どもたちだと思います。児童養護施設の養育は、そこで育つ子どもたちに表れるのです。だから、何をおいてもまず子どもたちを見るべきなのです。

子どもたちの本当の様子は、専門家でないとうからないと思います。先日、庫裡で法事のお斎があり、そのあとで参会者の方が、庫裡の作りを見て、立派な大工さんが作りましたねと褒めてくれました。その方は庫裡の鴨居の継ぎ目や柱の木目を見たのです。そんな細かなところに、素人は目がいきません。その方はプロでした。そのように、子どもたちを見る力がないと、児童養護施設の養育は分からないのです。

それから、わざわざ評価に時間やお金をかけなくても、子どもたちの育成は、卒園後の進路とアフターケアに表れます。子どもたちの自立です。昨年度の卒園生は、3名中2名が進学しました。そして、今も毎月手紙で生活の様子を知らせてくれます。卒園児のアフターケアというと、職員が出向いて様子を見るように予算がついています。それもあるかもしれませんが、卒園児が手紙で近況を知らせてくれることはそれ以上のアフターケアではないでしょうか。

今年の評価者の方は、隅々までご覧になりました。愛育園はすべてを公開しました。こんなところまで公開して良いのだろうかというところまで、評価者の守秘義務を信じて公開しました。どんな評価になるかは、評価者にお任せです。

おまいり

愛育園の朝夕のおまいりは創立以来72年間毎日続いています。おまいりに子どもたちの心が表れます。愛育園の養育でとても大切です。

私は、毎朝のおまいりでお地蔵さまの前に座って子どもたちが来るのを待ちます。そして挨拶をかけます。子どもたちから大きな声であいさつしてくれます。職員が来ます。子どもたちが職員の周りにまわりつきます。とってもいい光景です。職員を安心安全と思わなければ子どもたちはくっつきません。大好きにならなければ子どもは来ません。おまいりの前、食事のあとなど、ちょっとした時間に子どもたちが職員の膝に乗ったり、肩におぶさったりしているのを見るのが私は大好きです。

おまいりの声がとっても大きく響くようになりました。きっと、創立以来最高の大きさだと思います。ここに、今の子どもたちの心の状況が表れています。だから、みんないろいろなことにがんばってくれます。家にいるときにどうであっても、愛育園に来るとみんな皆勤で学校に通い勉強を頑張ります。とっても嬉しいです。



愛育園祭



あおぞらホーム長 富沢正樹

「コロナ禍にあって今年の愛育園祭は規模を抑えて開催するしかない。」という状況で行われた愛育園祭でしたが、今年も大成功だったと言える行事になったと私は思います。

毎年行われる愛育園祭は、大きく2つの意義があると私は考えています。1つは、外部の方をお招きし、楽しんでもらうという「人のために」どれだけ行動できるか。という事。

2つ目は、日々の生活の中でつけた力を目に

見える形で表現する事で自信をつける事です。

今年は「外部から人をお招きしない」「パフォーマンスや発表も縮小せざるをえない」という決定の中で、この2つの意義を達成する事は困難と感じながら準備を進めていました。

準備も佳境に差し掛かった一週間前、園長先生から、「愛育園祭がその後の子どもの生活に活きるものにしてほしい」と話がありました。私は「この状況下でこれ以上どうやって??」と思いました。一晚モヤモヤしましたが、確かにこのままでは意義を見失った形だけの愛育園祭になってしまう。と思い、急遽、毎年オープニングにやっている「木遣り」を「木遣りパフォーマンス」と名を変え、プラスバンドの音源に剣舞と掛け声を加えたパフォーマンスをやろうと男の子たちと先生方に提案しました。先生方は言葉にしなかったものの「えっいまから?」と思ったと思います。剣舞をする中高生の男の子は木刀を扱う事を提案するとテンションが上がっていましたが、最初、単に木刀を振り回すことに喜んでいたり、しっかりと振り付けが入って難しくなると気持ちが折れ消極的になりました。私は「見ている人を感動させようと思ったら、全員の動きがシンクロしないとダメだ。ただ自己満足でやるならやらない方がいい。」と檄を飛ばしました。せっかく振り付けを考えてくれた先生にも、「もっと見応えがあって、ダイナミックな感じが出る動きを考えよう。」とダメ出しもしてしまいました。期間は短かったですがレベルを妥協しなかったのは、日頃の子供たちの成長や先生方の頑張りを見てきて絶対できると確信していたからです。練習している最中これが愛育園祭をやる意義の1つだ。と思い出しました。実際子供たちは指摘してから、個人では動作のメリハリをつけ、全体では周りに動きを合わせる事を意識してやっていました。シンクロする為に、横目でチラチラと確認し合っている様子が何とも健気で、こういう素直さや前向きさは普段の積み上げが無いとできないよなあ。と、まさに日頃の成果が発揮されている事を感じました。さらに驚いたのは、締めの中で飛び技を入れる事を提案すると、数年前の愛育園運動会の空手演舞を当時小6の立場で見ていた高校1年生のN君が「曲の終わりに千手観音のような隊形で締めた」と逆提

(令和2年11月10日発行 月刊「円福」482号付録)

案してくるという、最高のアンサーを返してくれました。結局、飛び技も千手観音も両方取り入れ、迫力あるパフォーマンスになりました。先程のN君は人前で何か披露するのは大の苦手でしたが、センターに抜擢しました。練習中、後列に回りたくないような仕草を何回か見せましたが、練習を重ねて自信がつけば大丈夫。と声をかけ、とりあえず練習に打ち込んでいると後半には何事もなかったようにセンターを務めていました。今年から中学生になった3人の男の子も初めて演舞に挑戦し、最初は小学生の延長みたいにチャンバラしていたのが、後半、侍のようなキリリとした決め顔で木刀を振るようになり、とてもカッコ良かったです。

そして、そこに小学生の掛け声です。「つかめ夢のイメージ」「いざ次のステージ」「羽ばたいて前進」「いくぜ、どこまでも」「真向勝負だ」「飛び立て夢への滑走路」などなど。怒涛の前向き言葉の連打が小学生の甲高い声と共に曲に乗り、剣舞に一層迫力が増しました。

前日には、ほぼ完成して見応えのあるパフォーマンスになりましたが、私は「本番は緊張で、振りや声小さくなったりするから、今の内から本番を想定して全力でやろう。みんなを感動させよう。」と声をかけ、例え緊張しても、勝手に体が動く、声が出るレベルまで練習しました。そして、その甲斐あって、当日、剣舞の中高生も掛け声の小学生もバッチリパフォーマンスを決めてくれました。本番でも力を発揮できたことに、私は本当に嬉しい気持ちになりました。

その後の全体の歌発表や中高女子の書道パフォーマンスもとてもとても素晴らしいものだったのですが、愛育園祭が終わった後に、主任保育士さんから、「男の子達の勢いのあるパフォーマンスでスタートを切ったおかげで、全体の歌発表の声がいつもより大きく出ていたり、書道パフォーマンスもいつもよりみんな堂々出来ていて、声も出ていたよ。ありがとう。」という言葉ももらいました。男子のパフォーマンスがみんなの背中を押したんだ。と思った瞬間、私の中で、「人のため」というもう1つの意義が達成されました。

コロナ禍で規模縮小の状況であっても、今年の愛育園祭の経験はきっとその後の生活に活きる。と思える行事になった事が嬉しく思います。みんな本当によく頑張りました。達成感を感じている顔を見て、心から大成功だったと思います。

書道パフォーマンスや歌、露店や後片付けの事など、まだまだお伝えしたい子供たちの様子がたくさんありますので、ぜひ引き続き先生方の文章をご覧ください。



書道パフォーマンス



主任保育士 石崎早織

今年は新型コロナウイルスの影響もあり、愛育園祭も園内行事として行われました。子どもたちはお祭り自体できないのではないかと心配していたため、園内行事でしたが、とても楽しい行事となりました。私は今年書道パフォーマンスの担当をやらせてもらいました。愛育園祭で書道パフォーマンスを始めたころから携わらせていただいていたのですが、ここ数年は全体を見る役割として動いていたため、私自身もとても楽しみにしていました。今年はどんなデザインにするか、どんな曲がいいか、誰がどこを書くか、決めることはたくさんありましたが、子どもたちと相談しながら進めることができとてもよかったです。練習は短い期間でしたが、少ない時間の中で真剣に取り組む子どもの姿や、準備や片づけも率先してやってくれる姿など練習を通して子どものよい姿をたくさん見ることができました。また今年は特に中高生の人数が多く子どもだけで10人、まごころホーム職員を合わせれば17人と今までにない人数でしたが、全員で作り上げた作品にしたかったため細かく書く文字の担当も決めました。1曲の中で順番に書くのはとても難しいですが、繰り返し練習を重ねていくことで、上達していくのが目に見えてわかるようになりました。

本番はとても緊張しましたが、一人一人堂々とした文字を書くことができました。また最後の大文字の「つなぐ」も高校3年生の子が力強く書いてくれ、素晴らしい作品となりました。

愛育園祭 児童発表



まごころホーム 加藤ゆかり

10月25日(日)に第23回愛育園祭が開催されました。今年は新型コロナウイルスの影響でお客さんは呼ばず、園内行事として行いました。児童発表は、開催式のところでやることになり、全体で合唱の発表をすることに決めました。発表した曲は「カイト」と「明日へ」という2曲です。「カイト」は先日行われた運動会の発表でも使った曲で子ども達もよく知っている曲だったので、数回の練習でとても上手に歌えるようになりました。「明日へ」は3部合唱で、パート練習の時間を2日程しか取れませんが、子ども達が集中して練習に取り組み、形になりました。「明日へ」は難易度が高く、間に合うか心配した時もありましたが、子ども達と職員が力を合わせてとても良いものを作り上げることができました。当日は園や地域の役員の方、調理の先生に向けて発表しました。緊張にも負けず、しっかり声が出ており、素晴らしい発表になりました。

愛育園祭 演舞 木遣り



あおぞらホーム 金井雄大

10月25日、自分は二回目となる愛育園祭がありました。今回は去年と違い、様々なものを担当させていただきました。その中でも、演舞は短い時間の中で完成させました。約一週間前にやることが決まり、ありがたいことにセンスがあるからということで、振り付けを担当させていただきました。YouTubeを見て、演舞の動きをまず自分の中で覚え、それを主軸に、主任の先生や剣道の経験がある先生と一緒に子供たちができるようにアレンジしていきました。

初めてやったときは、なかなか自分が思うように動けなかったり、動画の動きが理解できないこともあり、それを子供たちに教えるのがとても難しかったです。そんな中でも子供たちは一生懸命練習し、遅いときには夜の11時まで練習していました。そのかいもあり、だんだんと動きを覚え、2日前には全体で動きを合わせるところまで出来るようになりました。特にセンターをやった高校生のN君には、特別な動きも多く、飛び蹴りや回転切りなど覚えることも多かったと思いますが、高校生として立派にやり切ってくれました。

1週間という短い期間で、様々な動きを覚えよく出来たと思います。

愛育園祭 露店(フロート)



まごころホーム 竹内早季

今年の愛育園祭での露店はフロートを担当しました。昨年と同じ露店を担当していたのですが、児童メンバーが愛育園祭に初めて参加する子ども達だったので少し心配でした。しかし、前日準備の時に意欲的に手伝ってくれて、メニュー表と一緒に作っている時も和気あいあいとした雰囲気の中準備することができました。今年は例年とは違い、園内行事の為露店も外ではなく食堂で行ったので、いつもと勝手が違い戸惑うこともありましたが、終始楽しそうにフロート作りをしてくれたおかげで無事全員に配りきることができました。終わった後も「楽しかったです!」ととてもいい笑顔で話していました。その後の片付けも率先してできていたので、本当に中高生たちは頼りになるなあと改めて感じた1日でした。

愛育園祭



あおぞらホーム 山田忍

10月25日 第23回愛育園祭がありました。

今年の愛育園祭はお客さんと呼ばずに園内行事として開催しました、各職員、児童たちそれぞれ露店や準備の担当があり自分は入場門作りと露店の「ジェットコースター」の担当でした。毎年準備が遅れ、ギリギリになって慌ててしまうのですが今年は担当してくれた子どもたち以外の子も積極的に手伝ってく

れてスムーズに準備が進み、直前になって焦ることなく愛育園祭を迎えられることが出来ました。愛育園祭当日を迎えると、一緒に準備してきたからこそ子供たちはとても楽しそうにしていました。食事の露店もどれもおいしいメニューばかりでお腹いっぱい食べみんなとても満足そうでなによりでした。

そして愛育園祭が終了し片付けが始まると何日もかけて作った入場門やジェットコースターがみんなの力であつという間に解体され2時間程で完全に片付けが終了したのはとても素晴らしく、みんなの力をまた来年に生かしていきたいなと思いました。

愛育園祭



あおぞらホーム 大山豊彦

今年の愛育園祭は、コロナの影響もあり園内だけのお祭りになりましたが、天候にも恵まれ青空の下、開催することができとても嬉しいです。

今回私は、愛育園祭の入場門とジェットコースターを担当しましたが、沢山のお花紙を折っては開いてという作業を子ども達に

も手伝ってもらったり、ジェットコースターの安全性を高めるために何度も試乗したりと本当にたくさんの人たちの協力で愛育園祭が出来ているんだと改めて実感しました。また、中高生と一緒に踊った演舞もとても感動しました。愛育園祭1週間前に急遽演舞を踊ることが決まり、それから毎日夜遅くまで、何度も踊っては富澤先生にご指摘いただいていた。途中、弱音を吐いてしまう子もいましたが、それでも本番当日には完璧に仕上げ、最高の演舞を踊ることができ、一緒に頑張れた事がとても嬉しいです。

先月は愛育園大運動会があって、次は愛育園祭という大きな行事が続く中、1ヶ月で準備ができるのだろうか心配していました。しかし、子ども達の積極的なお手伝いや先輩職員方の力で着々と準備が進められ、素晴らしい形で愛育園祭を迎えられたと思います。

そして職員と子ども達による合唱やパフォーマンスも日々の練習の成果もあり心一つになって素晴

(令和2年11月10日発行 月刊「円福」482号付録)

らしい物ができました。こういった行事を通して子ども達との関係も深めることができ、これからの生活も子ども達と一緒に頑張っていきたいと思います。

愛育園祭 児童感想 あおぞら

僕は、愛育園祭をやりました。6こ遊ぶものがありました。さいしょは、射的をやりました。5発でした。さいごの1発で3等をあてました。特賞があったけどむずかしかった。だから3等を当てました。2こ目は、ジェットコースターです。スーパーあずさの形でした。楽しかったです。3こ目はストラックアウトをやりました。スライダーの持ち方で、1発で100点ぶんのまをあてました。4こ目はボーリングです。ペットボトルがピンでした。ぼくは30点でした。5こ目はコロコロバイキングです。僕は5点か50に入りそうでしたが、0点でした。悲しかったです。6こ目は、謎解き宝探しをしました。さいしょ、ウェルカムスペシャルドリンクを飲みました。コップに何かかいてありました。さいごのあけるばんごうは523でした。宝箱には、プリンがありました。謎解き宝探しはまたやりたいです。お昼になると、さいしょはからあげを食べました。メロンソーダやわたあめもありました。おいしかったです。ごちそうさまをしたあとに、おもちゃがあって食べるのをわすれてしまいました。



(小3・T君)

10月25日に愛育園祭がありました。ぼくは初めて木遣りをして、きんちょうしたけど、大きな声で言えてよかったです。あと、露店でジェットコースター、VS嵐、射的、宝探しゲームがありました。すごく楽しかったです。あとお昼の時に食堂で食べ物がありました。それはからあげとカリカリチーズ、フロート、ミニパンケーキ、わたあめ、おもち、豚汁がありました。全部おいしかったです。次の愛育園祭がある時は、ぼくは中学生だから、僕が露店を開いているから、愛育園のみんなが楽しめるようにしたいです。

(小6・R君)

自分は初めて剣舞をやりました。練習した期間は1週間もない中で、一生懸命頑張りました。最初の頃は、何をやればいいのか、みんなとシンクロしてできるのかとても心配でした。でも毎日遅くまで剣舞の練習を頑張ってやりました。そして、前日では、みんな上手にシンクロしてできました。でも、自分とS君の向きがバラバラで大丈夫か心配だったけど、本番では、2人協力して



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

向きをそろえることができました。更に、1回もミスすることなくできました。他にも、自分は中学生になったので、初めての露店の担当でした。自分の担当は射的でした。射的では、色々なアニメのキャラクターをダンボールに貼って、それをカッターで切るという作業がありました。丁寧にやらなきゃいけないのでとても難しかったです。でも最後までやってたくさんのお客さんが来てくれたので良かったです。本番では、特賞を石崎tに当てられたので、とても悔しかったです。たくさんの人に1等を当てられたので、もっと工夫すれば良かったと思いました。自分は何も当てられず、とても悔しかったです。他にも、VS嵐では、ストラックアウトがとても楽しかったです。でも自分は、9を破壊してしまいました。ジェットコースターはとても急なカーブがあり、とても楽しかったです。午後のお昼では、たくさんの食べ物がありました。からあげはとてもカリカリしていて、おかわりを2回しました。カリカリチーズも、チーズがおいしかったです。わたあめは、4、5個食べました。フロートもアイスがとても冷たくておいしかったです。自分が1番おいしいと思ったのが、ミニパンケーキです。ミニパン2個に自分でトッピングできるのが最高でした。自分



分は、マーブルチョコをたくさんかけました。他にもブルーベリーなど、色々なトッピングがあっっておいしかったです。今年の愛育園祭は、園内だけの行事だったけど、去年以上に盛り上がったので良かったです。次の行事まで学校生活、普段の生活を一生懸命やりたいです。

(中1・Y君)

愛育園祭 児童感想 まごころ

今日は、まちにまった23回愛育園祭がありました。今回は、去年みたいにお客さん側ではなくてろてんをやる側だったのでとても準備するのが大変でした。そして書道パフォーマンスもやりました。私は、書道を習っているし他の中高生たちがやっているのを見てあこがれていたのでもとてもわくわくしていました。練習をしてみると字の大きさのかんかくがつかめず大変だったけど練習を重ねていくうちに大きな画用紙でも書けるようになってとてもうれしかったです。本番。きんちょうしたけどすばらしい字が書けたので良かったです。来年も楽しみたいです。

(中1・Rさん)

10月25日は第23回の愛育園祭がありました。私は愛育園祭に向けて主に3つがんばってきました。

1つ目は書道パフォーマンスです。今年はYちゃんが最後なので、Yちゃんが楽しく気持ちよく書けるようにすべての練習に一生懸命取り組みました。本番では急きょ別の字も書くよう頼まれま



(令和2年11月10日発行 月刊「円福」482号付録)

したが、しっかり自分の役割を果たしてきれいに仕上げることで良かったです。

2つ目は合唱練習です。今年はお客さんがほぼいないため、2曲を頑張って練習しました。1曲目のカイトは聞いていた曲なのですぐ歌えましたが2曲目の明日へは初めての曲だったので、すごく苦労しました。でも、本番ではお客さんから大きな拍手をもらえたのでとてもうれしかったです。



3つ目に露店です。前日準備では約12kgもの鶏肉を切りました。すごく手が痛かったです。当日ではみんなが露店をまわっている時に残りの半分を揚げました。みんなが美味しいと言ってくれたのでとてもうれしかったです。今年は毎年と違う形での愛育園祭となりましたが、とても楽しくできたので良かったです。

(中3・Aさん)

25日に23回目となる愛育園祭が開催されました。今年は、コロナ禍のため園内行事と言う形で行いました。その中でも思い出に残った事をあげたいと思います。

まず1つ目は例年通りに行っている書道パフォーマンスです。私は今年最後ということで大文字を書かせてもらいました。初めはなんなくいけそうと思っていましたが、実際あまり上手いかずすごく悩みました。先生と何度も話して変えていきました。他にも出番は多くて大変だったけど任せてもらえたので頑張ってみました。本番では、すごく緊張しましたが、曲内に納めることが出来ました。大文字も堂々と書くことが出来、すごく嬉しかったです。皆で協力して良いものが作れてよかったし、楽しかったです。

2つ目は、開催宣言です。開催宣言をやってほしいとお願いされたのは愛育園祭4、5日前でした。すごく急でびっくりしましたがそれよりもとてもうれしかったのを覚えています。たくさん練習して、本番大丈夫かなと思っていましたが間違えてしまいました。でも、たくさんの人に「かっよかった」と言ってもらえる事ができ良かったです。

この他にも、歌や露店なども頑張りました。全部良い思い出です。

今年で愛育園祭も終わってしまいました。すごくさみしい気持ちでいっぱいですが、愛育園祭で学んだことがいくつかあります。1つ目は何事にも積極的に取り組むことの大切さや楽しさ。2つ目は皆と協力することで得られる達成感。それらを学ぶことができた1日でした。この状況の



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

中で愛育園祭ができたことに感謝をし、次の行事に活かしていけるようにしたいです。楽しかったです！！ありがとうございました。

(高3・Yさん)

あおぞらホーム日より

あおぞらホーム 畔上裕吾

朝晩と冷え込む季節となってきました。園の子どもたちは朝の起床の際に、寒さからまだ布団に入っていたいという気持ちから、中々スムーズに起きられない子もいます。ですが、朝のお参り前にはしっかり起床し、顔を洗い、お参りをし、朝食を食べ、毎日元気に登校しています。

日中と朝晩の寒暖差から、体調を崩しやすい季節となってきましたが、スポーツの秋、食欲の秋でもあり、よく体を動かし、調理の先生方が作ってくださる栄養バランスの考えられた美味しい食事をしっかり摂り、この寒い季節を乗り切ってもらいたいです。

愛育園の一大行事でもある愛育園祭ですが、今年の愛育園祭は愛育園大運動会に続き、例年通りとはいかず、新型コロナウイルスの影響で規模縮小の中で開催されました。例年の愛育園祭では、地域の方々や園の子どもたちの友人を招き催されるのですが、今年は来賓の方3名をお招きした形となりました。そのような状況でも、あおぞらホームの出し物である木遣りと演舞では、これまで練習に一生懸命励む姿が子どもたち一人ひとりとてもかっこ良く、真摯に練習に取り組んだ成果が本番での良い発表に繋がったのだと思います。こうして全力で取り組んだことは子どもたちにとってかけがえのない思い出になったのではないのでしょうか。また、このような経験が子どもたち自身の成長にも繋がってくるのだと思います。

中学校では2学期の期末考査の範囲が発表され、日々勉強に取り組んでいます。一人ひとり目標点を決め、その目標点に向けて日々の日課を過ごしており、帰園後はすぐ学習に取り組み提出ノートを終わらせ、夜の学習時には各々の課題に取り組んでいます。こうした努力が実り、目標としている点数に少しでも近づけられるようサポートしていけたらと思います。

まごころホーム日より



まごころホーム 宮澤穂香

朝晩の寒さが段々と増してきた今日この頃、子ども達も布団から出るのが億劫になってきたようですが、朝のお参りを終え、ご飯を頂くと、元気いっぱいに登校していきます。

まごころホームでも、愛育園祭に向けて子ども達とみんなで協力して準備を進めました。ステージバックの装飾は率先して色塗りをしてくれたので、カラフルで迫力

(令和2年11月10日発行 月刊「円福」482号付録)

のある仕上がりとなりました。恒例となった書道パフォーマンスは、中高生・まごころ女性職員が一丸となって夜遅くまで練習しました。子ども達はテキパキと手際よく動いて、集中力もあり、愛育園祭本番は素晴らしいパフォーマンスとなりました。一つのことにみんなで取り組んだことで、とても達成感や一体感を感じることができました。

2020年はオリンピックに湧く年になったはずがコロナの影響で、自粛、自粛の緊張感の中、もう11月です。そんな中でも、園の子ども達は愛育園での思い出をたくさん作ってきました。1年を振り返りつつ、インフルエンザにもコロナにも負けない強い心と体で寒い冬を乗り越えていきたいと思っています。

調理室日より

調理員 加藤のぶ子

季節は進み過ぎやすくなりました。

10月の声を聞くと昨年の台風19号恐かったあの夜の不安な気持ちを思い出します。いざという時慌てないよう普段から心構えが大切かなと思います。

10月6日☆Aさん誕生日MENU☆

そうめん、焼き鳥、海藻サラダ、
ヨーグルトケーキ

Aさんは勉強を頑張っています。

25日園では重要な行事の一つ愛育園祭が行われました。



私達調理も前日からもち米や手作りあんこ豚汁の準備です。

当日はあんこ、ごま、きなこ三色の餅が出来ました。

露店やドリンクなどおいしくいただき楽しい大成功の日でした。

これから冷え込んで来るとインフルの流行シーズンを迎えます。

いろいろな食品を食べると予防に必要なビタミンDやカルシウムも

取れるので毎日の食事はたくさん食べて丈夫な体で流行に備えましょう。